

ここまで水が

集中豪雨などにより、普段は予想もしない高さまで浸水することがあります。浸水位の表示は、見る人に水害への備えの大切さを伝えます。今回は、愛媛県大洲市の白滝公民館の出水標と高知県南国市の岡豊小学校の浸水位プレートをご紹介します。

■白滝公民館の出水標（愛媛県大洲市）

大洲市の白滝公民館前には、昭和18年と昭和20年の洪水時の水位を示す出水標が建てられています。昭和18年（1943）7月24日の水位は海拔10.686mで、昭和20年（1945）9月20日の水位は10.086mと表示されています。昭和18年の洪水時には、肱川で多くの家が流されるなど悲惨な光景が目撃され、白滝国民学校（現白滝小学校）では階下教室が浸水し、ご真影のほか重要書類が二階に移されたと記録されています。昭和20年の枕崎台風の時には、白滝公園の上の山崩れで滝川の土砂が流れ出て、土砂が積み上がり、白滝では家の二階から出入りするほどでした。＜参考資料：長浜町誌編纂会編「長浜町誌」（1975年）及び国土交通省大洲河川国道事務所「写真で見る『肱川の水害』」（2004年）＞



■岡豊小学校の浸水位プレート（高知県南国市）

南国市立岡豊（おこう）小学校には、平成10年高知豪雨の時の浸水位を示すプレートが設置されています。平成10年（1998）9月24日から25日にかけて、秋雨前線により、高知県中央部は記録的な豪雨に見舞われ、南国市では床上浸水824戸、床下浸水968戸などの被害が出ました。岡豊小学校の玄関横のプレートで浸水位を測ると、水位は地面から179cmの高さでした。浸水位プレートは校舎内と体育館にも設置され、日頃生活する小学生や教員だけでなく、学校を訪れる人々にも水害への備えを呼びかけています。＜参考資料：南国市小学校社会科副読本編集委員会編「南国市の暮らし」（2009年）など＞

